

第7回みえ県民意識調査の集計結果 ～県民の皆さんの幸福実感を調査しました～

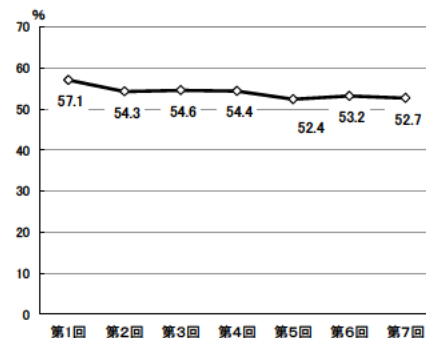
県では、「みえ県民カビジョン」において、「県民力でめざす『幸福実感日本一』の三重」を基本理念として掲げており、県民の皆さんの「幸福実感」を把握し、県政運営に活用するため、一万人の県民の皆さんを対象に毎年「みえ県民意識調査」を実施しています。

今回、平成30年1月から2月にかけて実施した「第7回みえ県民意識調査」の集計結果がまとまりましたので、お知らせします。

I 調査の概要等

- 1 調査期間 平成30年1月～2月
- 2 調査方法 県内に居住する18歳以上の10,000人に対する郵送アンケート
- 3 有効回答数 5,270人（有効回答率 52.7%）

図表1 有効回答率の推移



4 調査項目

- ・ 幸福感
- ・ 地域や社会の状況についての実感
- ・ 政策分野の重要度に関すること
- ・ 県民指標に関すること
- ・ ご家族に関すること
- ・ 人生100年時代に関すること
- ・ 健康づくりに関すること

5 その他

第7回みえ県民意識調査の集計結果をまとめた報告書は、4月11日から県ホームページでご覧いただけます。また、平成30年4月下旬に県庁や各県庁舎（地域防災総合事務所、地域活性化局等）に配置する予定です。

[URL](http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/) <http://www.pref.mie.lg.jp/KIKAKUK/HP/mieishiki/> （「みえ意識」で検索）
今後、集計結果をもとに戦略企画部において分析する予定です。

II 集計結果（概要）

1 幸福感

報告書 5～7頁

(1) 日ごろ感じている幸福感

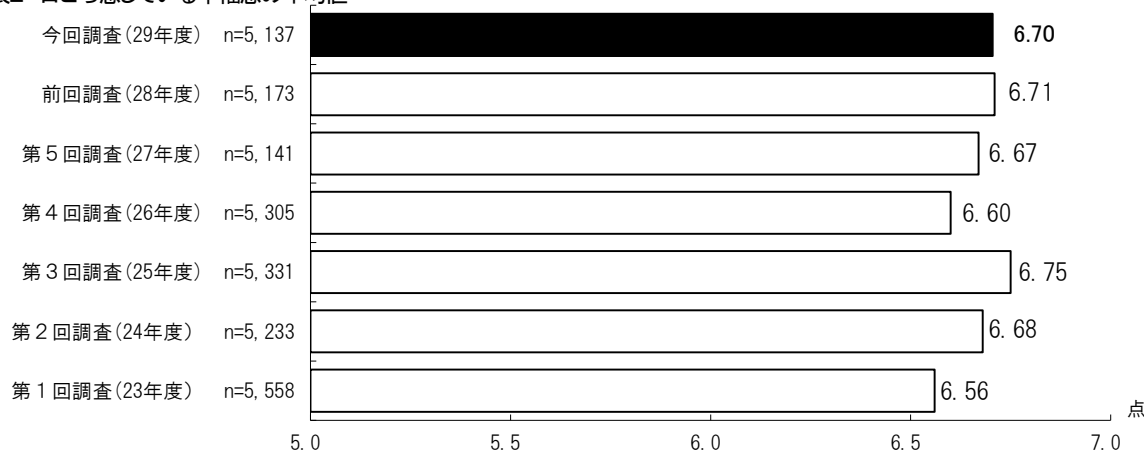
現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

※第1回調査から継続して質問しています

県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、平均値は6.70点で、第1回調査より0.14点高く、前回調査より0.01点低くなっています。

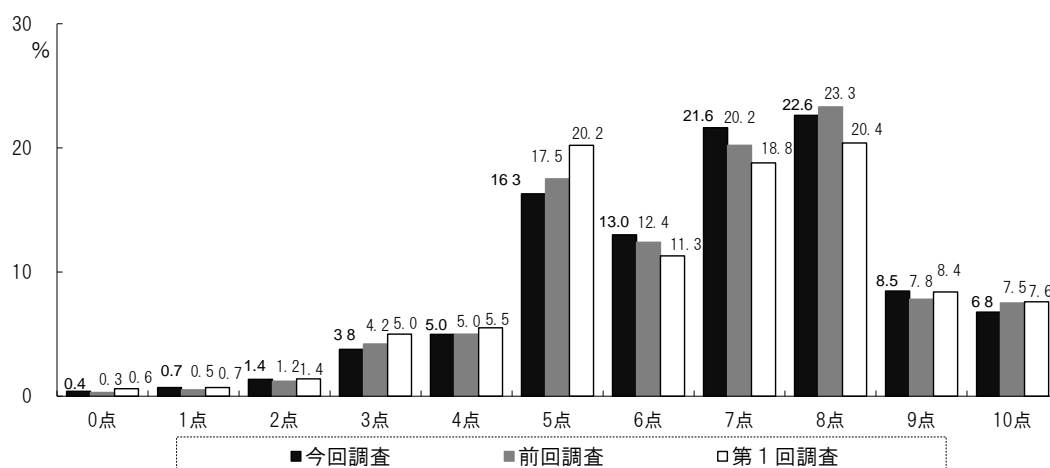
点数の分布をみると、「8点」の割合が22.6%と最も高く、次いで「7点」が21.6%と「5点」が16.3%となっており、M字型となっています。

図表2 日ごろ感じている幸福感の平均値

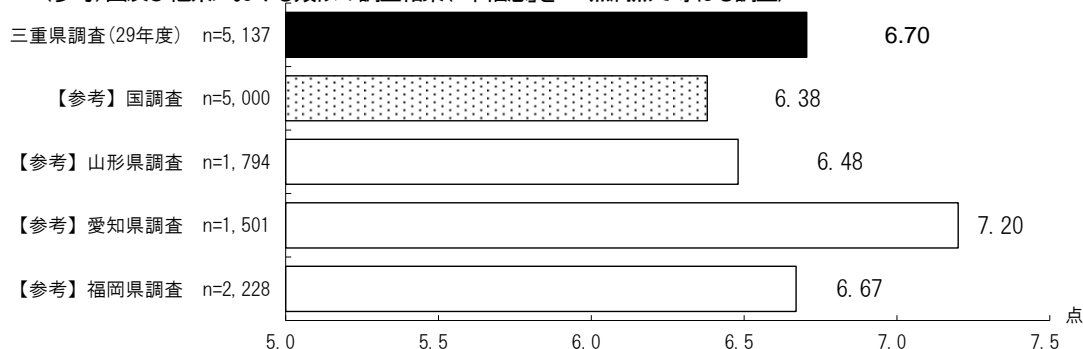


※ これまでの調査で幸福感が最も高かったのは第3回調査の6.75点で、今回調査は過去3番目の高さとなっています。

図表3 日ごろ感じている幸福感の分布



図表4 (参考)国及び他県における類似の調査結果(「幸福感」を10点満点で尋ねる調査)



図表5 日ごろ感じている幸福感の平均値(属性項目別)

	今 回	(前回差)	<第1回差>
	点	ポイント	ポイント
合計	6.70	(-0.01)	<0.14>
地域			
北勢	6.80	(-0.01)	<0.16>
伊賀	6.53	(-0.08)	<0.02>
中南勢	6.69	(0.00)	<0.15>
伊勢志摩	6.54	(-0.10)	<0.13>
東紀州	6.52	(0.16)	<0.05>
性別			
男性	6.51	(-0.07)	<0.19>
女性	6.91	(0.06)	<0.11>
年齢			
18歳から20歳代	6.81	(0.12)	<->
30歳代	6.92	(0.01)	<0.07>
40歳代	6.76	(-0.11)	<0.19>
50歳代	6.66	(-0.05)	<0.16>
60歳代	6.70	(-0.01)	<0.21>
70歳以上	6.64	(0.09)	<0.09>
主な職業			
農林水産業	6.46	(-0.02)	<-0.04>
自営業・自由業	6.90	(-0.03)	<0.25>
正規職員	6.80	(-0.06)	<0.11>
パート・アルバイト・派遣	6.62	(-0.02)	<0.23>
その他の職業	6.74	(0.12)	<0.07>
学生	7.41	(0.44)	<0.83>
専業主婦・主夫	7.07	(0.04)	<0.03>
無職	6.29	(-0.12)	<0.06>
配偶関係			
未婚	5.94	(-0.09)	<0.17>
有配偶	6.88	(-0.03)	<0.10>
離別・死別	6.17	(-0.10)	<0.07>
世帯類型			
単独世帯	5.96	(-0.03)	<-0.03>
一世代世帯	6.82	(-0.01)	<0.08>
二世帯世帯	6.71	(-0.02)	<0.21>
三世帯世帯	6.90	(-0.11)	<0.08>
世帯収入			
100万円未満	5.62	(-0.24)	<->
～200万円未満	5.84	(-0.25)	<->
～300万円未満	6.40	(-0.02)	<->
～400万円未満	6.60	(0.07)	<->
～500万円未満	6.80	(-0.15)	<->
～600万円未満	6.95	(0.07)	<->
～800万円未満	7.12	(0.01)	<->
～1,000万円未満	7.21	(0.06)	<->
1,000万円以上	7.41	(-0.27)	<->

※年齢の18歳から20歳代については、第6回調査からの調査項目であるため、第1回調査と比較を行っていません。

※世帯収入については、第1回調査と収入区分が同一でないことから、比較を行っていません。

(2) 幸福感を判断する際に重視した事項

幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

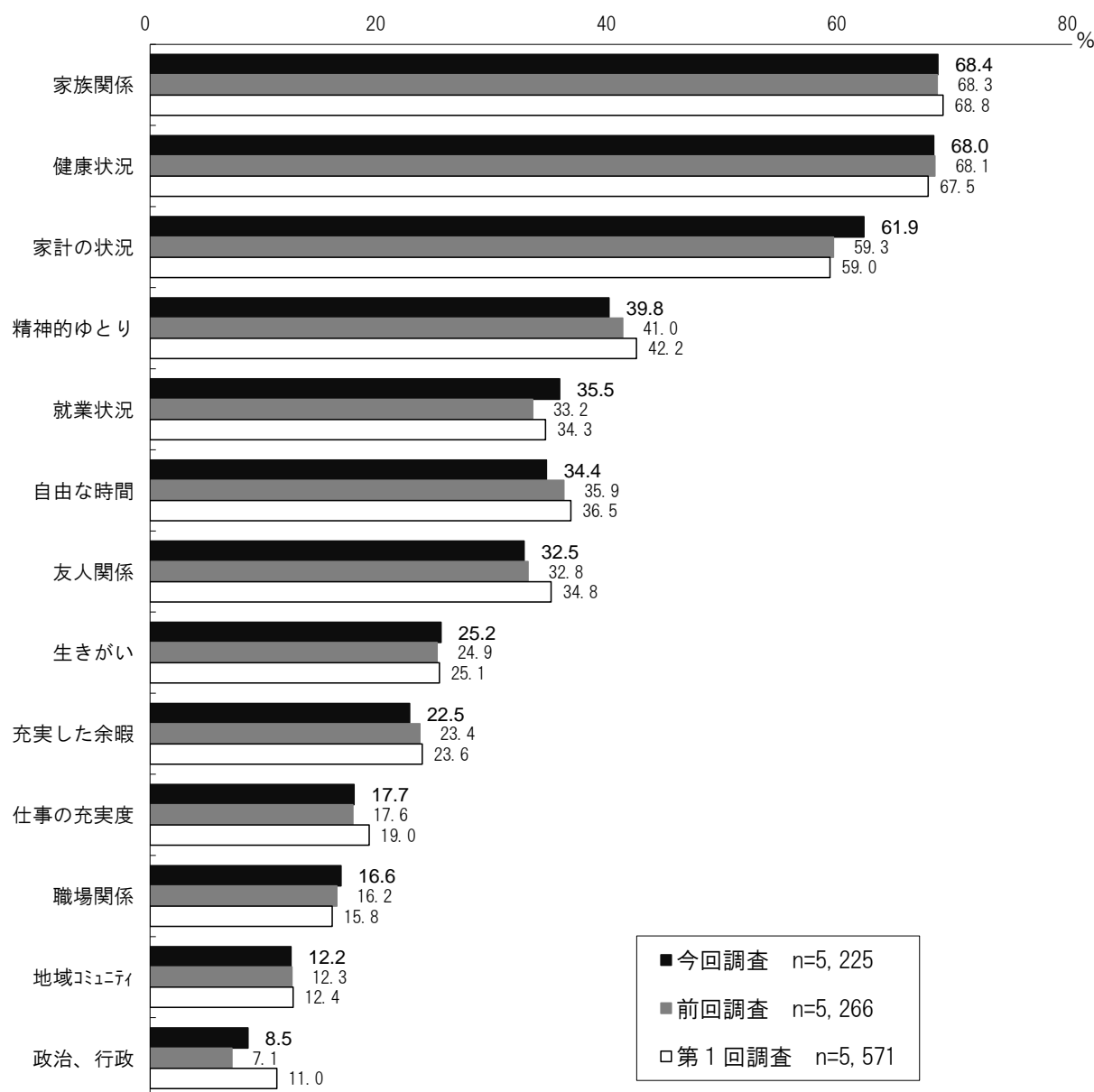
※第1回調査から継続して質問しています

幸福感を判断する際に重視した事項は、「家族関係」の割合が68.4%で最も高く、次いで「健康状況」(68.0%)、「家計の状況」(61.9%)となっています。

最も割合が高い事項については、第4回調査と第5回調査を除いて「家族関係」となっています。

また、前回調査との比較では、「就業状況」が「自由な時間」と入れ替わり、5番目に高くなったことを除くと、前回調査の順位から変動はありません。

図表6 幸福感を判断する際に重視した事項[複数回答]



(3) 幸福感を高める手立て

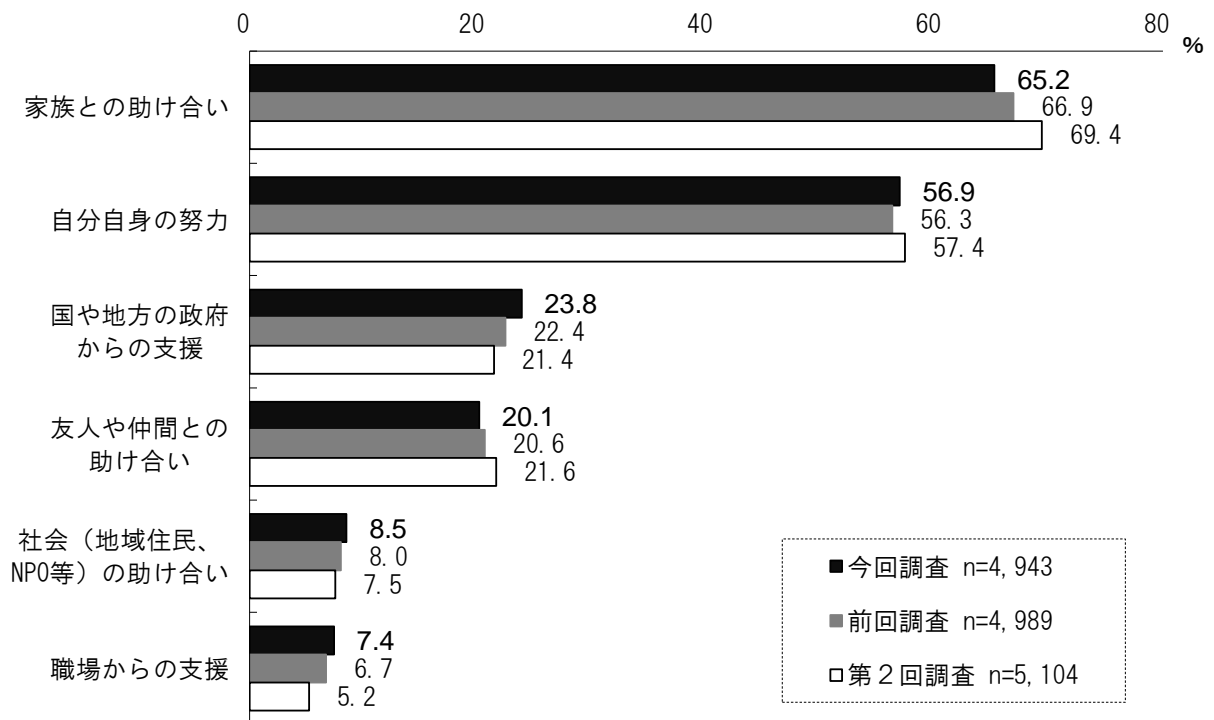
あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

※第2回調査から継続して質問しています

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が 65.2%で最も高く、次いで、「自分自身の努力」(56.9%)、「国や地方の政府からの支援」(23.8%)となっています。

前回調査との比較では、「国や地方の政府からの支援」が 1.4 ポイント、「職場からの支援」が 0.7 ポイントそれぞれ高く、「家族との助け合い」が1.7 ポイント、「友人や仲間との助け合い」が 0.5 ポイントそれぞれ低くなっています。

図表7 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕



2 地域や社会の状況についての実感

報告書 13~45 頁

「地域や社会の状況についての実感」は、「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した15の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

地域や社会の状況について、あなたの実感をおききします。

次の(1)から(15)までの15の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。

- (1) 災害の危機への備えが進んでいると感じますか。
- (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。
- (3) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。
- (4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
- (5) 身近な自然や環境が守られていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (6) 性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
- (8) 結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (9) スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じますか。 (第5回調査で質問を変更)
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
- (11) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
- (12) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
- (13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
- (15) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

○ 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1 感じる 2 どちらかといえば感じる

3 どちらかといえば感じない 4 感じない 9 わからない

※第1回調査から継続して質問しています

○『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した『実感している層』の割合は、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」が85.8%で最も高くなっています。次いで「(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(73.7%)、「(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(65.5%)の順で、これまでの7回の調査を通じて同順位となっています

○『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した『実感していない層』の割合は「(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が64.2%で、第1回調査以降、継続して最も高くなっています。次いで、「(1)災害の危機への備えが進んでいる」(58.3%)、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(56.9%)の順となっています。

○前回調査との比較

前回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは、15項目のうち9項目で、増加幅が大きかったのは「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」(+2.0ポイント)、「(7)子どものためになる教育が行われている」(+1.9ポイント)、「(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている」(+1.5ポイント)となっています。

また、低くなったのは6項目で、減少幅が大きい順で「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(-3.4ポイント)、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(-2.8ポイント)となっています。

一方、『実感していない層』の割合が低くなったのは、15項目のうち3項目で、「(7)子どものためになる教育が行われている」(-1.1ポイント)の減少幅が最も大きくなっています。また、高くなったのは12項目で「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+5.1ポイント)、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(+4.7ポイント)となっています。

○第1回調査との比較

第1回調査から質問内容を変えずに継続的におききしている11項目のうち、第1回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは9項目で、増加幅が最も大きかったのは「(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+15.7ポイント)、次いで「(12)県内の産業活動が活発である」(+8.9ポイント)、「(7)子どものためになる教育が行われている」(+8.6ポイント)となっています。

一方、『実感していない層』の割合は、「(3)必要な福祉サービスが利用できる」(+1.6ポイント)、「(15)道路や公共交通機関等が整っている」(+1.0ポイント)、「(11)三重県産の農林水産物を買いたい」(+0.9ポイント)を除く8項目で第1回調査より低くなっています。

図表8 地域や社会の状況についての実感（一覧）

	□感じる □どちらかといえば感じる □どちらかといえば感じない □感じない □わからない・不明					実感している層		実感していない層	
						今回	(前回差)	今回	(前回差)
						%	ポイント	%	ポイント
(1)災害の危機への備えが進んでいる	3.5	29.3	35.7	22.6	9.0	32.8	(-1.4) <8.4>	58.3	(3.6) <-8.2>
(2)必要な医療サービスが利用できる	10.6	42.1	23.4	15.6	8.3	52.7	(0.7) <7.3>	39.0	(1.4) <-6.1>
(3)必要な福祉サービスが利用できる	5.0	26.3	27.5	20.1	21.2	31.3	(-0.2) <-1.4>	47.6	(1.0) <1.6>
(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている	14.5	51.0	18.8	10.7	5.0	65.5	(0.1) <6.6>	29.5	(0.9) <-6.9>
(5)身近な自然や環境が守られている	6.9	40.6	27.5	16.4	8.7	47.5	(-1.8) <->	43.9	(2.2) <->
(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとられず、誰もが社会に参画できている	2.9	25.4	34.6	20.2	16.9	28.3	(1.5) <->	54.8	(-0.7) <->
(7)子どものためになる教育が行われている	3.9	32.4	28.1	15.2	20.5	36.3	(1.9) <8.6>	43.3	(-1.1) <-6.6>
(8)結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている	9.8	36.8	24.6	13.8	15.1	46.6	(0.9) <->	38.4	(0.9) <->
(9)スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っている	5.9	36.7	29.3	13.9	14.2	42.6	(0.8) <->	43.2	(0.5) <->
(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい	32.3	41.4	11.2	7.2	7.8	73.7	(0.2) <0.6>	18.4	(0.5) <-1.3>
(11)三重県産の農林水産物を買いたい	43.3	42.5	5.8	5.4	3.0	85.8	(2.0) <-1.6>	8.8	(-0.3) <0.9>
(12)県内の産業活動が活発である	4.9	31.8	33.5	12.2	17.7	36.7	(1.3) <8.9>	45.7	(1.5) <-8.4>
(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる	5.0	28.0	33.7	17.5	15.8	33.0	(-3.4) <15.7>	51.2	(5.1) <-13.0>
(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている	1.9	18.7	35.1	29.1	15.2	20.6	(-0.4) <6.9>	64.2	(0.8) <-8.5>
(15)道路や公共交通機関等が整っている	5.4	32.2	29.4	27.5	5.5	37.6	(-2.8) <0.1>	56.9	(4.7) <1.0>

※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
 ※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計

※割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出

※第5回調査で質問を変更したものは、第1回調査と比較していない

3 政策分野の重要度に関すること

報告書 48～50 頁

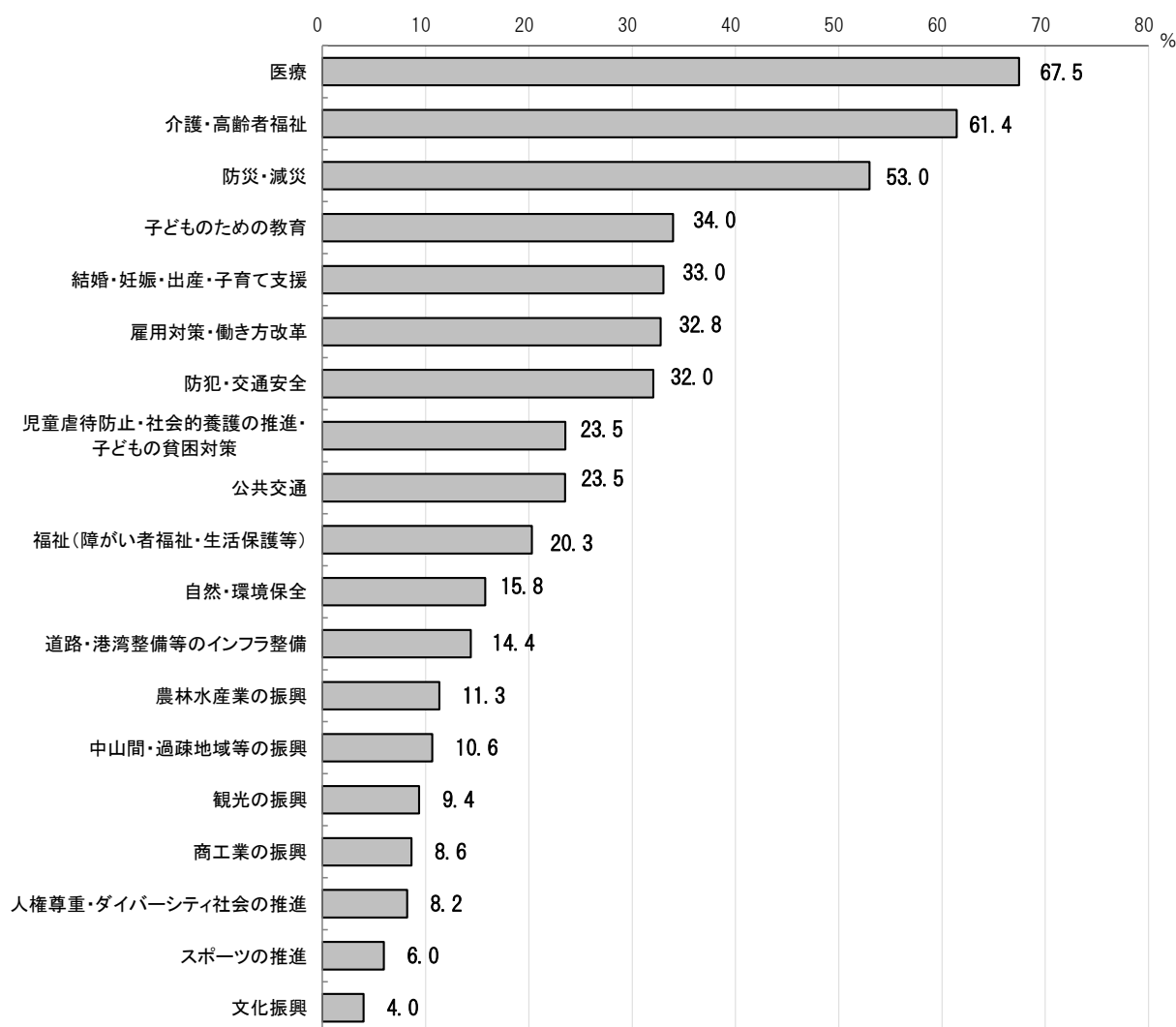
(1) 政策分野の重要度

あなたは、次の19の政策分野について、どれが重要だと考えますか。

※新規の質問です

政策分野の重要度について質問したところ、「医療」が67.5%と最も高く、次いで「介護・高齢者福祉」(61.4%)、「防災・減災」(53.0%)となっています。

図表9 政策分野の重要度(複数回答)



4 ご家族に関すること

報告書 70 頁

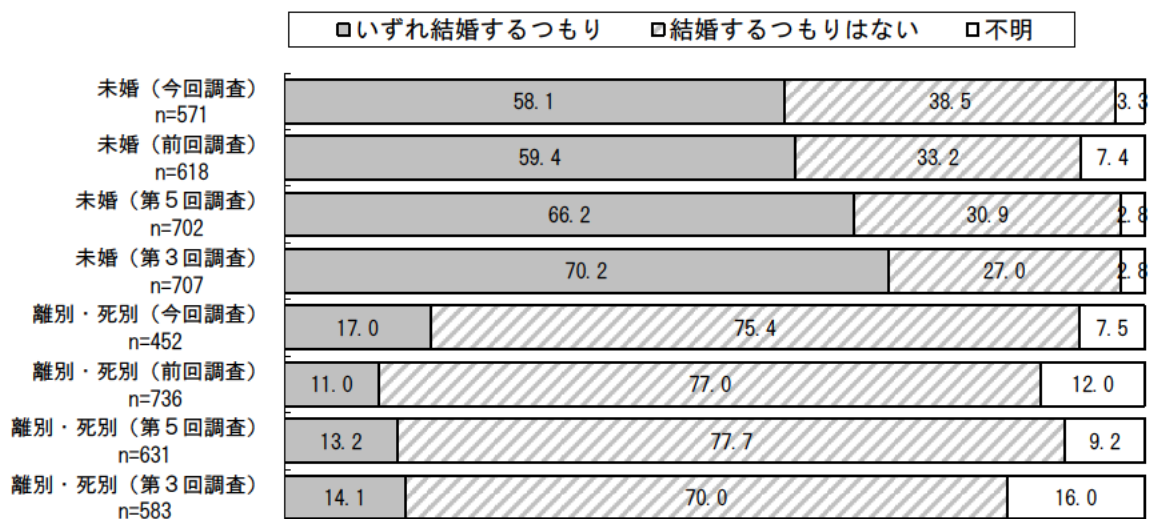
(1) 結婚に対する考え方

今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

※第3回、第5回、前回、今回調査で質問しています
未婚の方または離別・死別した方に対して、結婚に対する考え方を質問したところ、未婚は「いずれ結婚するつもり」が 58.1%、「結婚するつもりはない」が 38.5%となっています。離別・死別は「いずれ結婚するつもり」が 17.0%、「結婚するつもりはない」が 75.4%となっています。

未婚の「いずれ結婚するつもり」が第3回調査以降低くなっています。

図表10 結婚に対する考え方



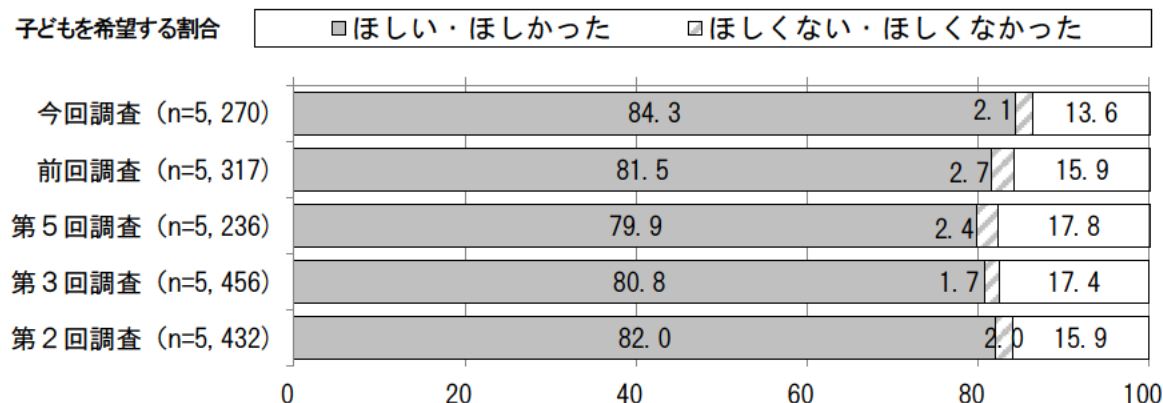
報告書 72 頁

(2) 子どもを希望する割合

あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいはほしかったですか。

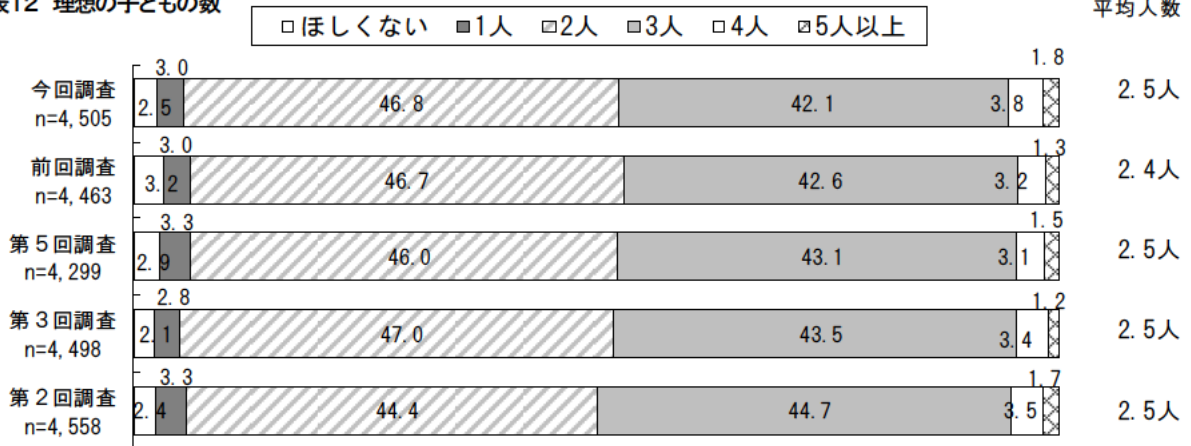
※第2回、第3回、第5回、前回、今回調査で質問しています。
子どもの希望を質問したところ、「子どもがほしい・ほしかった」の割合は 84.3%で、前回調査より 2.8 ポイント高くなっています。

図表11 子どもを希望する割合



理想の子どもの数について、「2人」の割合が46.8%で最も高く、次いで「3人」(42.1%)と なっています。前回調査と比較すると「0人(ほしくない、ほしくなかった)」及び「3人」な どの割合が低くなった一方、「2人」、「4人」、「5人以上」の割合は高くなっています。理想の子 どもの数の平均は2.5人で、前回調査より0.1人多くなっています。

図表12 理想の子どもの数



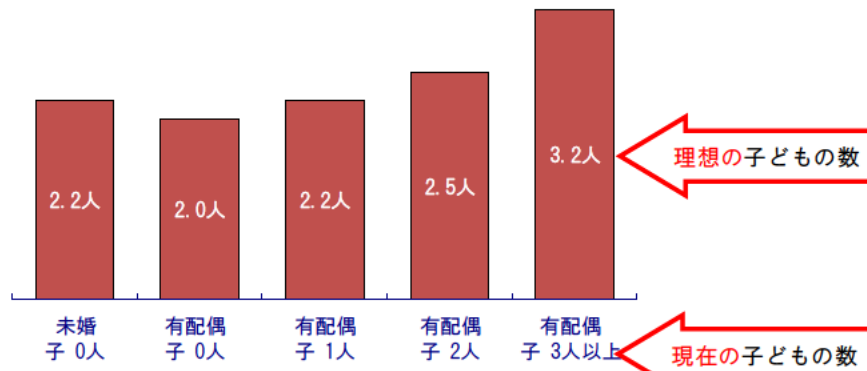
(3) 子どもの数の理想と現実のギャップ (参考集計)

報告書 74~75 頁

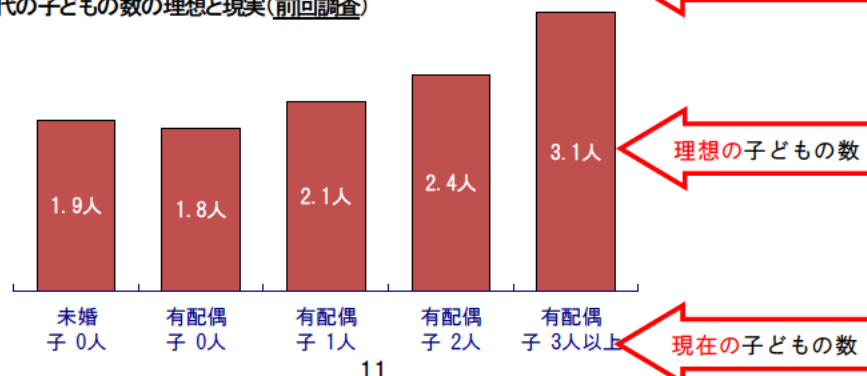
20歳代~40歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層は2.2人、有配偶で子どもがいない層は2.0人、有配偶で子ども1人の層は2.2人、有配偶で子ども2人の層は2.5人、有配偶で子ども3人以上の層は3.2人で、実際の子どもの数は理想の数より少なく、前回調査と同様の結果となっています。

前回調査と比べると理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層で0.3人、有配偶で子どもがいない層で0.2人、有配偶で子ども1人、有配偶で子ども2人、有配偶で子ども3人以上の層で、それぞれ0.1人ずつ増加しています。

図表13 20歳代~40歳代の子どもの数の理想と現実(今回調査)



図表14 20歳代~40歳代の子どもの数の理想と現実(前回調査)



(4) 子育てでの不安

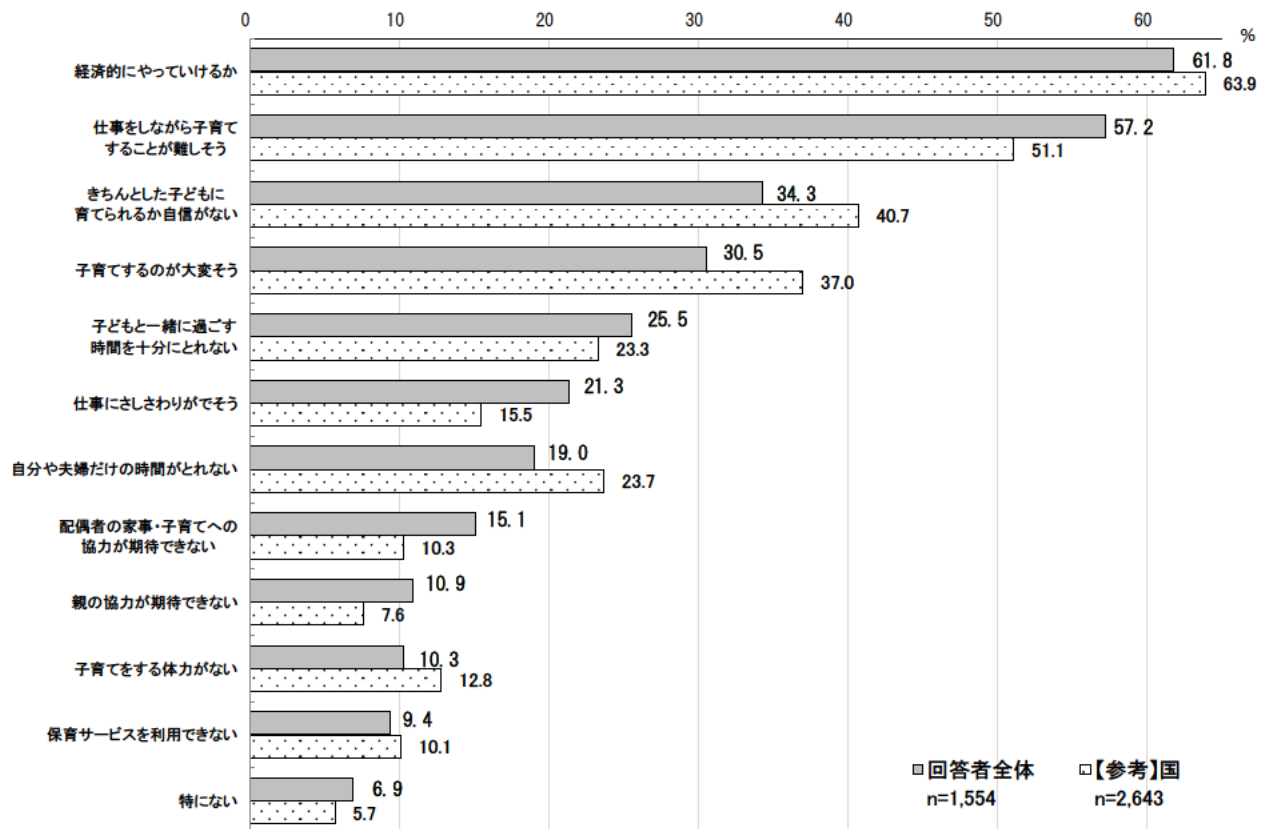
あなたは、子育てで不安に思う（思った）ことは何ですか。

※新規の質問です

18 歳から 40 歳代の方に子育てでの不安について質問したところ、「経済的にやっていけるか」の割合が 61.8%と最も高く、次いで「仕事をしながら子育てすることが難しそう」(57.2%)、「きちんとした子どもに育てられるか自信がない」(34.3%) の順となっています。

国では 20 歳から 39 歳までの者に対して同様の質問をしているため、国と比べると、「きちんとした子どもに育てられるか自信がない」、「子育てするのが大変そう」の回答割合が国より 6 ポイント以上低くなっています。

図表15 子育てでの不安(複数回答)



※国調査：内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」(平成 26 年度)

(5) どのようなことがあれば、子どもが欲しいと思うか

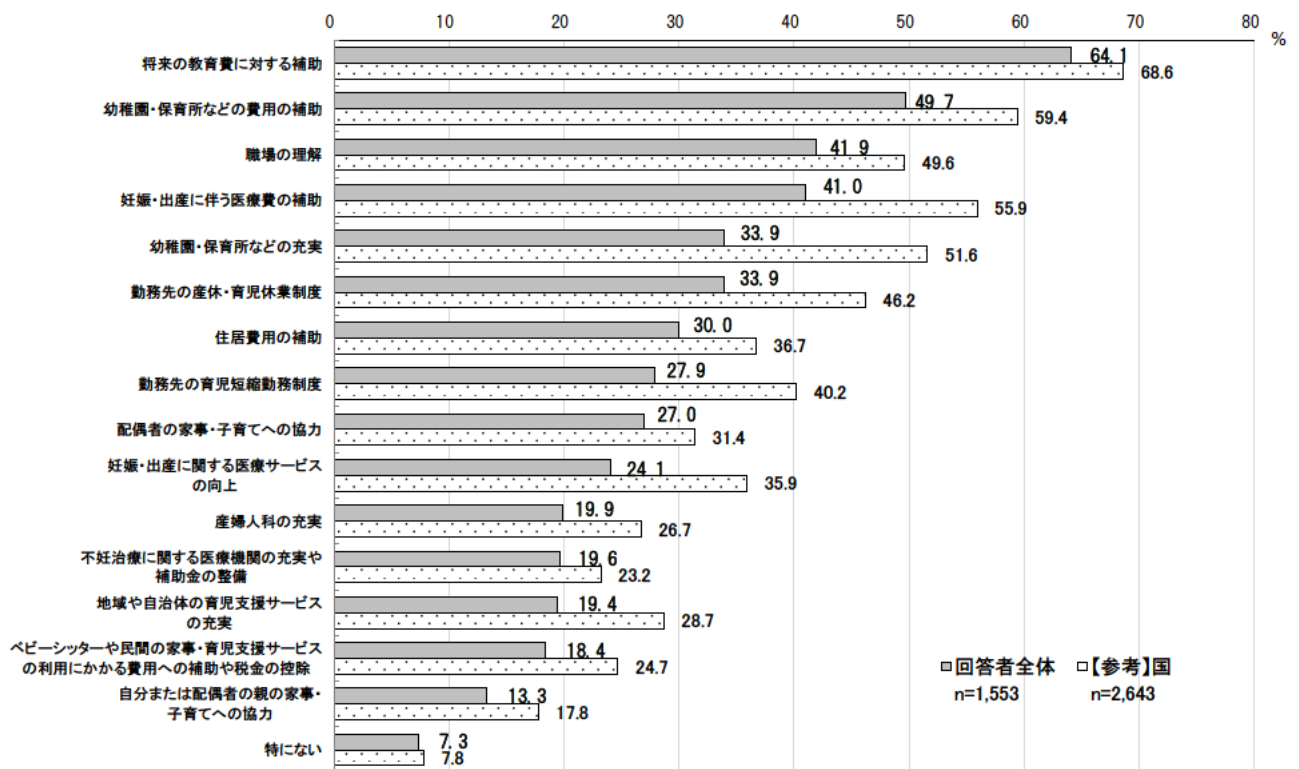
どのようなことがあれば、あなたは（もっと）子どもがほしいと思いますか。

※新規の質問です

18歳から40歳代の方に、どのようなことがあれば、子どもが欲しいと思うか質問したところ、「将来の教育費に対する補助」の割合が64.1%と最も高く、次いで「幼稚園・保育所などの費用の補助」(49.7%)、「職場の理解」(41.9%)の順となっています。

国では20歳から39歳までの者に対して同様の質問をしているため、国と比べると、国では3番目に高い項目は「妊娠・出産に伴う医療費の補助」となっていますが、本調査では「職場の理解」となっています。

図表16 どのようなことがあれば、子どもが欲しいと思うか(複数回答)



※国調査：内閣府「結婚・家族形成に関する意識調査」(平成26年度)

6 人生 100 年時代に関すること

報告書 82～83 頁

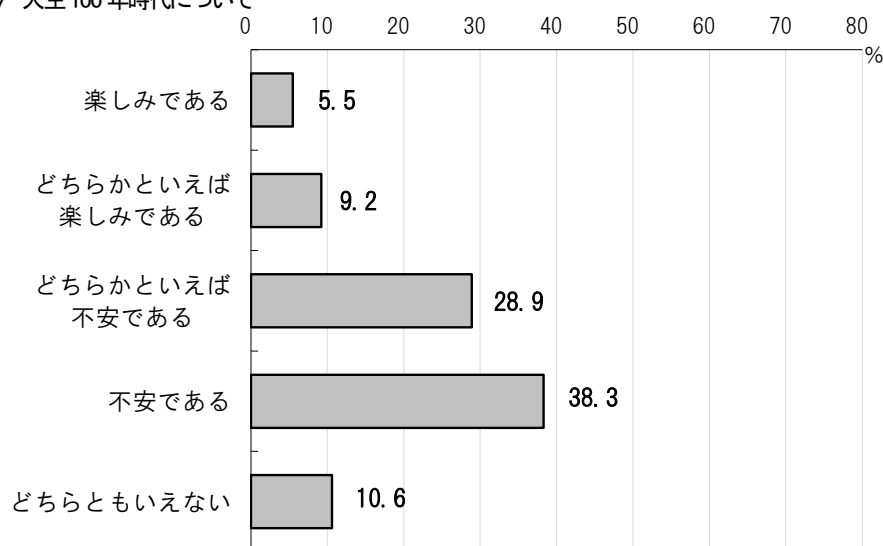
(1) 人生 100 年時代について

あなた自身が 100 歳まで生きることについて、どう思いますか。

※新規の質問です

100 歳まで生きることについて質問したところ、「不安である」が 38.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば不安である」(28.9%)、「どちらともいえない」(10.6%) となっています。

図表17 人生 100 年時代について



報告書 84～85 頁

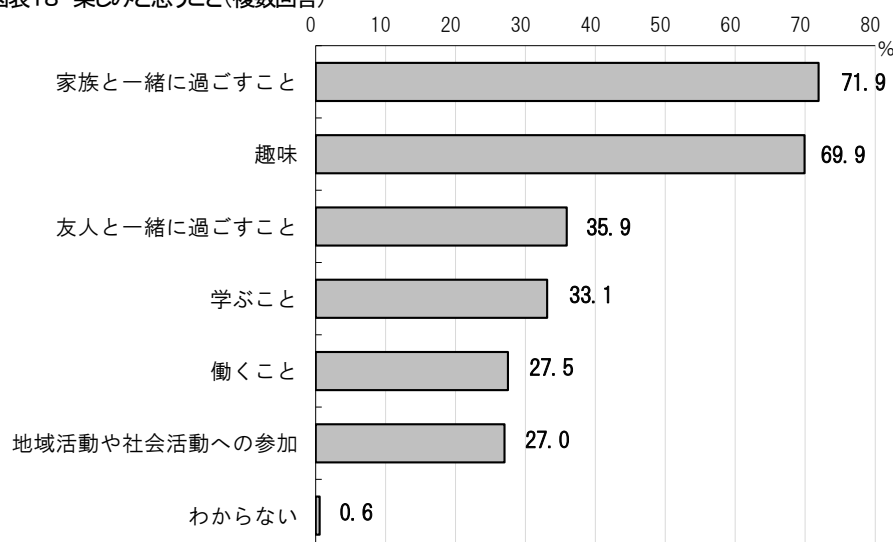
(2) 楽しみと思うこと

あなたが楽しみと思うことは何ですか。

※新規の質問です

人生 100 年時代を「楽しみである」、「どちらかといえば楽しみである」を回答した方に楽しみと思うことを質問したところ、「家族と一緒に過ごすこと」が 71.9%と最も高く、次いで「趣味」(69.9%)、「友人と一緒に過ごすこと」(35.9%) となっています。

図表18 楽しみと思うこと(複数回答)



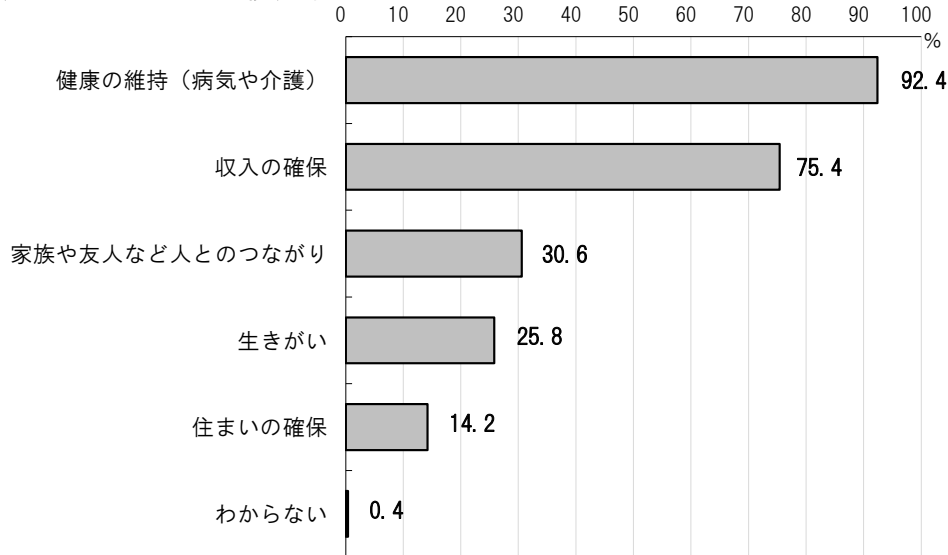
(3) 不安に感じること

あなたが不安に感じることは何ですか。

※新規の質問です

人生100年時代を「不安である」、「どちらかといえば不安である」を回答した方に不安を感じることを質問したところ、「健康の維持(病気や介護)」が92.4%と最も高く、次いで「収入の確保」(75.4%)、「家族や友人など人とのつながり」(30.6%)となっています。

図表19 不安に感じること(複数回答)



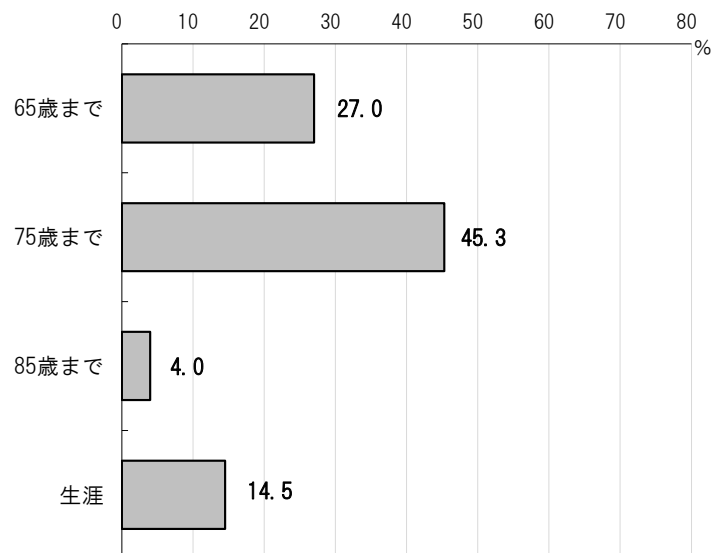
(4) 社会で活躍できる年齢

あなたは、仕事に従事したり地域活動に参加するなど、社会で活躍できる年齢は、何歳までだと思いますか。

※新規の質問です

社会で活躍できる年齢を質問したところ、「75歳まで」の割合が45.3%と最も高く、次いで「65歳まで」(27.0%)、「生涯」(14.5%)の順となっています。

図表20 社会で活躍できる年齢



7 健康づくりに関すること

報告書 92～93 頁

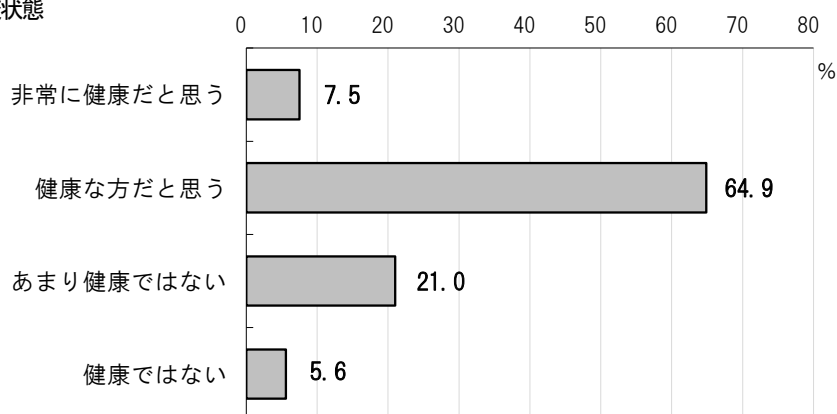
(1) 健康状態

あなたは現在、健康だと感じていますか。

※新規の質問です

健康状態について質問したところ、「健康な方だと思う」が 64.9%と最も高く、次いで「あまり健康ではない」(21.0%)、「非常に健康だと思う」(7.5%) となっています。

図表21 健康状態



報告書 94～95 頁

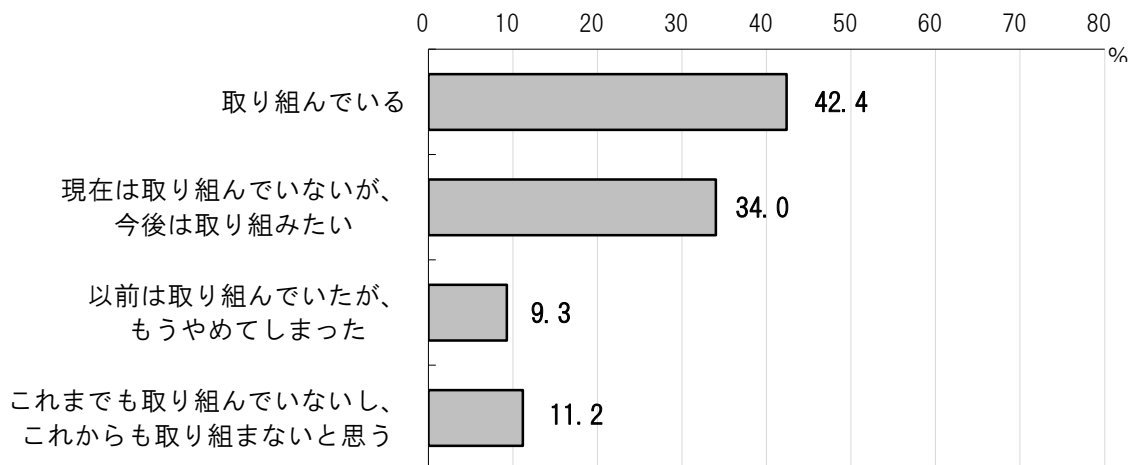
(2) 健康づくりへの取組

あなたは、健康づくりに取り組んでいますか。

※新規の質問です

健康づくりへの取組状況を質問したところ、「取り組んでいる」が 42.4%と最も高く、次いで「現在は取り組んでいないが、今後は取り組みたい」(34.0%)、「これまでも取り組んでいないし、これからは取り組まないと思う」(11.2%) となっています。

図表22 健康づくりへの取組

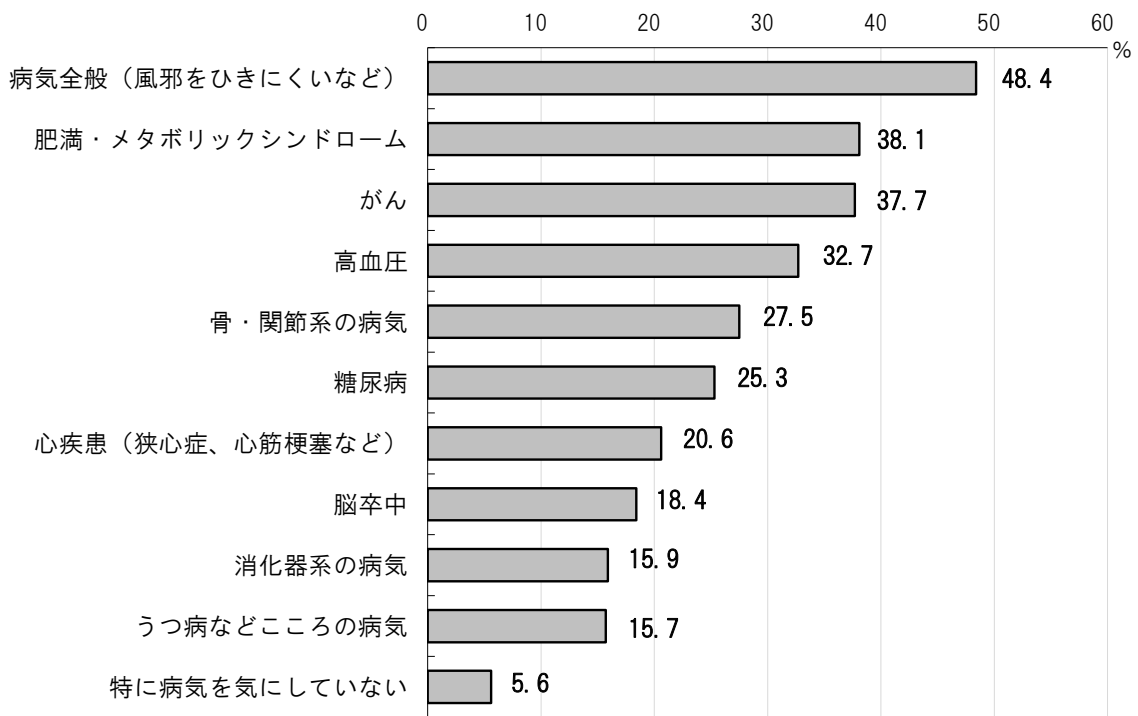


(3) 意識している病気

あなたは健康づくりに関し、何か病気を意識していますか。

※新規の質問です
健康づくりに取り組んでいる（取り組もうとしている、取り組んでいた）方に意識している病気を質問したところ、「病気全般（風邪をひきにくい）」が 48.4%と最も高く、次いで「肥満・メタボリックシンドローム」（38.1%）、「がん」（37.7%）となっています。

図表23 意識している病気(複数回答)



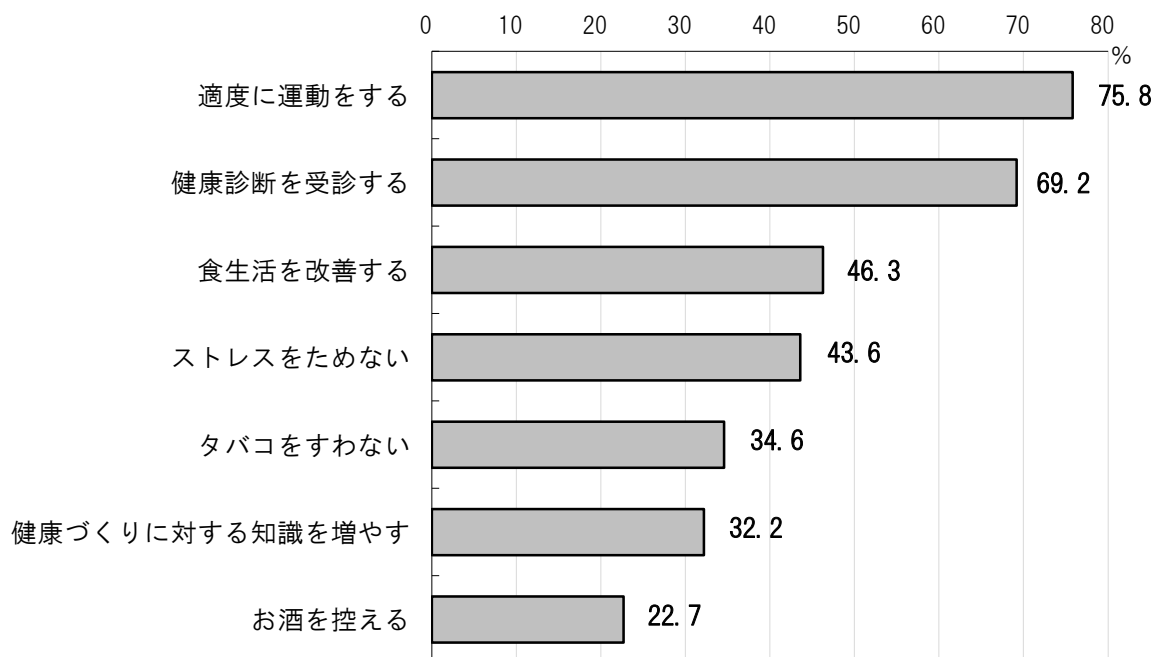
(4) 取り組みたい健康づくり

あなたは、どのような健康づくりに取り組んでいますか。

※新規の質問です

健康づくりに取り組んでいる（取り組もうとしている、取り組んでいた）方に、取り組んでいる（取り組もうとしている、取り組んでいた）健康づくりを質問したところ、「適度に運動をする」が75.8%と最も高く、次いで「健康診断を受診する」（69.2%）、「食生活を改善する」（46.3%）となっています。

図表24 取り組みたい健康づくり(複数回答)



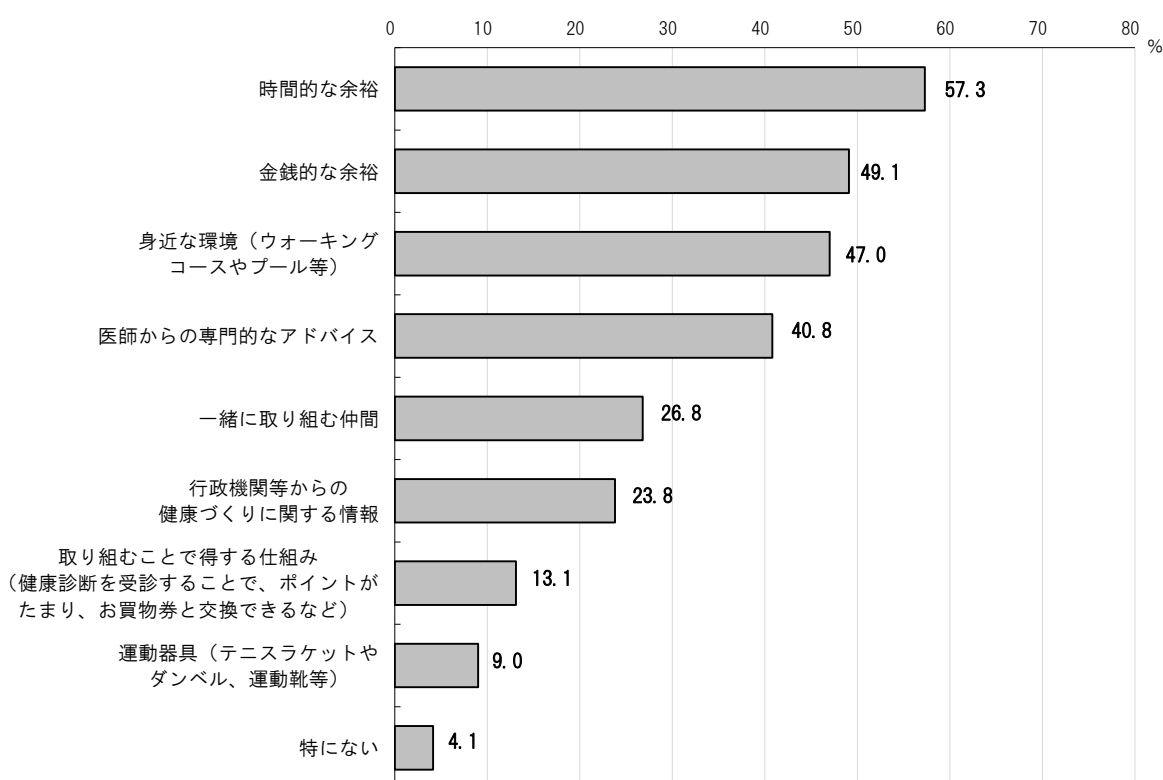
(5) 健康づくりに欠かせないもの

あなたが健康づくりに取り組むために、欠かせないと思うものは何ですか。

※新規の質問です

健康づくりに欠かせないものを質問したところ、「時間的な余裕」が57.3%と最も高く、次いで「金銭的な余裕」(49.1%)、「身近な環境(ウォーキングコースやプール等)」(47.0%)となっています。

図表25 健康づくりに欠かせないもの(複数回答)



(6) 食生活で気を付けていること

あなたは、毎日の食生活で気を付けていることは何ですか。

※新規の質問です

食生活で気をつけていることを質問したところ、「朝食を毎日食べる」が63.7%と最も高く、次いで「主食・主菜・副菜のそろったバランスの良い食事」(61.8%)、「毎回の食事で野菜を食べる」(47.5%)となっています。

図表26 食生活で気を付けていること(複数回答)

